

**第3回社会福祉サービスのあり方検討会 議事録**

日 時	平成 29 年 1 月 30 日 (月) 10:30~12:00
場 所	ザ・パレスサイドホテル 2階 「グランデ」
出 席 者	空閑委員、荒牧委員、高木委員、宮本委員、荻野委員、河合委員、楠委員、中江委員、樋口委員、櫛田委員、磯委員、山田委員、松村委員、大泉京都市監査適正給付推進担当部長（高城委員代理）、栗林委員、山本委員、内舘オブザーバー（厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 企画調整専門官）

**第1 開会**

**第2 議事**

**1 第1回・第2回検討会での主な意見**

説明者：介護・地域福祉課 長谷川副課長  
別添資料1に基づき説明があった。

**2 これからの地域福祉における社会福祉法人の役割**

説明者：内舘オブザーバー  
別添資料2に基づき説明があった。

**3 意見交換**

別添資料3の論点に基づき以下のとおり意見交換があった。

**【論点】**

- 1 社会福祉法人の情報発信「運営・取り組みの見える化」
- 2 地域が抱える福祉ニーズの把握「ニーズの見える化」
- 3 地域の福祉ニーズへの対応方法
- 4 地域内での連携づくり

発 言 者	内 容
欠 席 委 員 の 意 見 （ 事 前 聴 取 の 上 、 紹 介 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人が本来持つ社会福祉事業に「+α」が求められている。各法人で何を「α」として拡げていくかがこれからの社会福祉法人の姿として必要。</li> <li>・ 特殊なニーズではなく、地域住民が生活を送るなかでの一般的な福祉ニーズをいかにして拾い上げるか。まずは事業として地域住民と関係を持って地域に入らないと、ニーズを拾うことは難しい。</li> <li>・ 地域は多様で多層構造。マイナーな価値観には拒絶も出てくる。多様な価値観を許容出来る地域づくりには、そのままでは交わらない共同体をつなぐプラットフォーム的な役割を社会福祉法人が担うことが重要。</li> <li>・ 地域を巻き込んだ取り組みに当たっては、先に制度や義務が決まり「事業実施」前提では住民は付いていけない。いかに「（ニーズに応じて）やりたいこと」として住民に提示し、関心・共感を持ってもらうかで違ってくる。地域ニーズに合致している事業は、自然と関わる人・モノが集まっている。</li> <li>・ 社会福祉法人そのものの認知度が低いように感じる。住民は興味がないものは認知しない。どうすれば関心を持ってもらえるか、を考えることからではないか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉サービスの提供についての情報発信とともに、人材確保のためのPRをもっとすべき。ケアの魅力や法人の就業環境の情報などもアピールしないと必要な人材自体が来ない。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つの論点があるが、まずは論点1である情報発信から御意見をいただければと思う。</li> <li>まずは、第1回・第2回で先駆的な事例を報告いただいた社会福祉法人の委員から御意見いただきたい。</li> <li>その後、その意見を受けて、利用者側の立場で参画いただいている委員から社会福祉法人への期待やもっとよい情報発信の方法や、地域への参画についての御意見をいただきたい。</li> <li>その次に、法人・施設団体の委員から意見、行政からの意見をいただければと思う。</li> </ul>
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の法改正で社会福祉法人の情報は「見える化」されたが、今後は「見せる化」をどうするのかということが問われている。「見せる化」をする中で、社会福祉法人は存在を高めていくことができる。</li> <li>地域のなかで社会福祉法人は存在している。自治会に参画する等により、地域の情報をしっかり把握していくことが必要ではないか。</li> <li>社会福祉協議会を含めると、全国には郵便局に近い数の多くの社会福祉法人が点在しているので、まず市町村単位で二つ三つの窓口として情報を収集、対応を進める段階で法人の得手不得手によりグループ化が進んでいくと思う。各社会福祉法人が地域の福祉ニーズに対する窓口を設置したらどうか。</li> <li>社会福祉法人が、具体的な取り組みを通じて地域に発信していくということが大切。多様な経営主体が参入し、また、徐々に社会福祉の給付費のアップ率が小さくなってきているが、事業をする意義について、社会福祉法人と他の経営主体との違いをしっかりとアピールできているのか。</li> <li>社会福祉法人は、地域づくりや、地域の力を引き出す取り組みを本気でできる可能性を秘めている。それを具体的な事例に基づいてしっかり見せていくことが必要。</li> <li>社会福祉法人だからこそできることを、具体的な活動を通じてしっかりと発信していくことが大事。具体的な活動を通じて、いろんな課題が見えてくるし、活動を通じて社会福祉法人が他の経営主体とは違うということを、どれだけしっかりと地域の方にアピールしていくか。</li> <li>人材確保の育成・定着について、特に若者に対しては、どれだけやりがいがあり、深く、広く、楽しいかについて、いろいろな形で情報発信する。特に今の若者はwebを主に見るので、そういうところでしっかりと発信していくことが大事。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>非営利法人である社会福祉法人だからできること、非営利であるからこそやらなければいけない社会福祉法人の役割であるか。また、その取組の情報を「見える化」だけでなく、「見せる化」するのか。また、施設・事業所がある地元地域に眼差しを据えて、具体的に自治体の窓口を作っていくことで地域に出向いていく機能が持てるのではないか。そのような意見をいただいた。</li> <li>それでは、利用者の立場の委員から御意見いただきたい。</li> </ul>
利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化率が約40パーセントの地域に認知症対応型のデイサービスを開設したが、一般のデイサービスより利用料が高いため、そのサービスが本人にとって本当に必要</li> </ul>

者	<p>であっても、ケアマネージャーは、低額な方を紹介してしまう例もある。その方にとって、何が価値があるのかということもよく考えた上で、いろんな施策が進んでいけないといけない。全てに対応するのは難しいとは思いますが、なんでも平準化すればよいという話ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 去年7月におきた相模原市の「津久井やまゆり園」の事件について、地域との交流も少なかっただろうし、障害者に関わっていた人がこういう事件を起こしたということは、人材育成がなっていかなかったのだと思う。特別の人間が起こしたことだという視点では、こういうことが繰り返されてしまうのではないかと危惧する。</li> <li>・ 地域の中で施設や建物を持ち、豊富な人材を抱えているところが、地域との交流を進め、地域のどこからでも見える形であってほしい。</li> <li>・ 学校の対応も非常によい時代になったが、障害のある子どもを地域で支援することは薄れてしまっているのでは。どこにどんな人がいるのか、地域の人たちが認め合いながら生きていけるような社会になってほしい。</li> <li>・ 最近、社会福祉施設においても、福祉に全く関係のないところからの中途採用者が多いが、会話の中で「障害者の権利というけれど、僕の権利は何？」と言う指導員人もいる。給与面等、働く人たちの生活がきっちり守られないと、良い人材が集まらないのではないかと。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活の豊かさは他人が決めたものにあてはめていくのではなく、それぞれに豊かさがあり、それが何なのかを考えることが、ニーズの把握に繋がると思う。</li> <li>・ また、人材については、昨年7月に発生した相模原市の障害者支援施設の殺傷事件からも、人がどのような地域で、どのような人と出会い、どのような経験をしてきたのか、そのような背景を鑑みて考えなければならない。 今、いただいた意見を踏まえ、そのように思う。</li> <li>・ それでは、論点1の情報発信について、社会福祉法人・施設団体の委員から御意見いただきたい。</li> </ul>
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人は、発信の方法や、どのようなツールを使ってどのように展開するか等、自ら改革に着手しているが、発信ばかりではなく、地域からの発信をどのように受信するかも重要。その中で地域とどう繋がっていくか、組織として、また、構成員が私人として、自分の地域とどのように繋がっていくかも大事である。それがニーズの確かな受信の場所に繋がっていく。社会福祉法人の役割に地域貢献や地域公益活動があるが、やはり直接まちづくりに参画していくということかと思う。</li> <li>・ 人材確保については、できるだけ幅を広げて、いろいろなチャンスを提供する。そして、採用した人をどう育成していくのかということ、しっかりと組み立てていけないといけない。</li> <li>・ 一人一人の職員をどう育てていくかを、組織の中にも、外部にも、本人にも明確に提示していくことが必要。</li> <li>・ 社会福祉法人は営利法人との違いをしっかりと見せることが必要。効果的にサービス提供する中で、儲けたお金をどのように地域に対し、再投資していくかということを考え、実施することが、社会福祉法人と営利法人との大きな違いではないかと。</li> <li>・ 人材確保は大問題だと思っている。福祉現場に人が集まらないのは、福祉現場に対</li> </ul>

	<p>する悪いイメージが付きすぎているのではないかと感じており、このようなイメージを大きく変える一層の努力が、我々、団体に求められていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人の地域貢献としては、ダイレクトに地域とつながっていく中で、ニーズを受けて止めて、地域の人々にそのニーズに対するサービスを届けていく。そういう身近なところから法人・施設の有用化を図っていく必要がある。</li> <li>・ 現在、京都市内の密集地（京都駅周辺）に立地している施設を運営しているが、そのような密集地で事業を行うということは非常に勉強になる。地域住民とお互いにメリットを感じられる関係性が必要であり、法人の取組を地域住民に伝えられているかどうか、その法人や施設への理解に繋がるということが実感できた。</li> <li>・ 社会福祉法人は地域の公民館的な役割を果たせばよいと考えている。例えば、地元の自治会からの依頼を受け、施設を自治会の集会所としての使用や、自治会の備品用の倉庫を施設内に設置し、その倉庫を広報板として使えるようアレンジし、地域の広報活動にも使えるようなスペースを設けている。</li> <li>・ これからの福祉・社会福祉法人のあり方としては、特別な人による特別な支援ではなく、圧倒的多数の中間層の市民にとっての法人・施設の地域への有用化が必要である。その中間層の中に障害や高齢の様々なニーズが包摂していると考え。この日本の福祉が普遍化に向かっている中、普遍化に対応する施策を基盤に置くことが必要だと考えている。</li> <li>・ 「見せる努力をする」「非営利法人であることをきちんとわきまえる」という意見はもともとである。</li> <li>・ 最近、兵庫県と大阪市で不祥事が起きたが、非営利法人である社会福祉法人が、営利法人でもないことを行い、社会的にも相当奇異な目で見られているところがある。</li> <li>・ 男性保育士の平均勤続年数が5.1年という数字が出た。有能であり、将来施設で中核的な働きをするであろう男性保育士がなぜ、5年ほどでやめていくのか。</li> <li>・ 階層の固定化がより進んでいる。環境のよい中で育っている子どもたちと、非常につらいと思われる環境で育っている子どもたちとの格差が甚だしく、次世代もきっとこんなのだろうと思うところが非常に明確に現れてきた。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人がニーズをどう受信・把握するのか、社会福祉法人の非営利であることを活かして、そのニーズに対してどう対応していくのか、そのようなことを含めて、論点2、3も意識しながら、社会福祉協議会の立場から御意見いただきたい。</li> </ul>
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人が公益性や公共性を果たす一環として、また、協働して地域の課題に取り組む仕組みとして「わかプロジェクト」がある。実施主体は府社協であるが、あくまで社会福祉法人が連携・協働して取り組む事業であり、制度の狭間の課題に取り組むこととして、経済的貧困や社会的孤立の相談等を想定しているが、当面は子どもの貧困に焦点をあてている。</li> <li>・ いろいろな地域貢献の方法はあるが、まず一步踏み出してやり始めるということが大事。また、ただやるのではなく、市町村、府、教育委員会、民生委員、社会福祉協議会、地域の福祉団体や住民の方に集まっていただき、課題を議論し、どういう形をとれば地域のニーズに合うのか、意見交換をしながら進めるその課程を大事にしてい</li> </ul>

	<p>る。その中で繋がりや協力体制ができ、事業が拡大していく。いろいろな地域の方々とコミュニケーションを図ることで課題が拾えるし、新たな課題の発見につながる、その課程が大事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法人経営の柱として、人材の育成・確保は、とても重要な視点。福祉現場で働く人は、社会貢献の志だけでは絶対に続かない。自分がその世界で必要とされ、評価されているという実感があるからこそ続けられる。職員を大事にしてこそサービスの質が向上し、社会から評価され、結果、人が集まって、施設の発展がある。</li> <li>社会福祉法人は非営利法人であっても「儲ける」という視点は大事。儲けたお金の使い方が問題なのである。サービスの向上や職員の処遇改善にはコストがかかる。経営の工夫は大事。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見の中で、「連携」というキーワードが出てきた。</li> <li>それでは、行政から論点2、3、あるいは、「連携」というところも含めて、御意見いただきたい。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ「見せる化」「見える化」をしないといけないのかを各法人・施設が意識しないといけない。地域と繋がることに非常にメリットがある。(相模原事件とも関連して)地域と繋がりを持つ中で、それが施設・法人の安心安全につながる等の視点が必要になる。</li> <li>「見せる化」「見える化」の中での情報発信については、個々の法人で行うものだけでなく、施設の種別単位や種別同士での連携、あるいは、地域単位といった考え方もある。いろんな階層の中でどう連携し、また、行政とそれらがどのように情報共有したり分担したりしていくかが重要。</li> <li>保育と高齢の両部門を持つ社会福祉法人があり、介護保険適用外の有償サービスを行っているところ、見守りや生活支援サービスを中心にスタートさせたという先取りした事例がある。</li> <li>これからは、社会福祉協議会を中心に地域協議会をつくっていかなければならないが、そういうところで進め方や仕組みづくりを考えていきたい。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、全ての論点について、これまで発言いただけていない委員から御発言いただきたい。</li> </ul>
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>KBS京都の「京biz」という番組で、上位認証の4法人の取り組みについて報道されていた。社会福祉法人が社会福祉の世界をリードしていく重要な存在だということ、上位認証の「見える化」や「見せる化」が次の課題と思う。</li> <li>平成29年4月から介護予防・日常生活支援総合事業(「総合事業」)が始まる。京都市老人福祉施設協議会では、市民を対象に研修を実施し、その受講者に訪問介護の「支え合い型ヘルプサービス」という形で地域で活動、支援をしていただく。こういう地域の担い手の掘り起こしが、社会福祉法人の新たな役割だと思う。支える側と支えられる側の垣根を取り払って、お互いよいものを作り上げていく。総合事業を進める中で、社会福祉法人の新たな取り組みが必要かと思う。</li> <li>認知症の夫と体の不自由な妻が暮らすデイサービス利用者宅にケアマネージャーが迎えに行こうとしたが、積雪のためなかなか屋内に入れず、事務所の男性職員に応援を頼み、やっと屋内に入ることができたという事例があった。ニーズと地域と行政との関係</li> </ul>

	<p>性を考えることが、大きな課題であることを考えさせられた。「この地域にあの法人があるから安心して暮らせるね。」ということを見せる化」することによって、そこには自ずと人材も集まってくるものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の事業所は一施設一法人が多く、意識としては「事業」を一生懸命見せているということが多い。今回ポイントとなるのは、社会福祉法人をどのように見せるかである。それぞれの事業所は一生懸命やっているのが、法人としてどのように見せるかということが、大きな課題ではないか。</li> <li>・ 保育士は、量の確保の問題があり、今、保育士資格を取りやすくなっている背景があるが、一方で質の高さを求められる部分もある。深くニーズに応えるには、質の高い保育士の養成も必要。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やりがいのある奥の深い職場であること、社会福祉貢献していること等により、古いイメージを払拭し、処遇改善したなかで福祉人材の確保に努める必要がある。</li> <li>・ 行政と事業者それぞれの情報及びニーズを把握して、プラットフォーム的な機能を持ち、それを事業やサービスに繋げていく機能を高めていくことが必要。</li> <li>・ 法人が地域にどのように入っていくのかがポイント。</li> <li>・ 地域の社会福祉の要として社会福祉法人があるべきだ。その役割を担っていただくためには、どのような仕組みがいいのか、という論点には、社会福祉法人として本来の業務としている事業と、それ以外の公益事業と二つある。前者については、京都府には認証制度や上位認証制度があり、第三者評価も他府県よりも高いレベルである。そういうことをうまく活かしたなかで、どういう形でうまく「見える化」「見せる化」していくかというのも一つの方法。もう一つは、本来の社会福祉事業とは違う視点でもやっていたらかなければならない。</li> <li>・ 地域福祉を担う要として法人及び社会福祉施設が地域と繋がりながら、教育委員会や民生委員等様々な人たちと意見交換するなかで新たな課題が見えてきたとの御意見もあったが、それも踏まえながらやっていかなければいけない。</li> <li>・ 市町村とともに京都府全体として仕組みを作っていくには、この二つの大きなテーマを区別して、どのように次のステップに繋げることができるのかを考えていきたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（ 以 上 ）</p>